



## 氷川祭礼絵馬 (氷川神社蔵)

縦152cm、横205cmの大絵馬。天保15年(1844)に、川越氷川神社本殿改築の上棟式を祝って、鳶職一同が奉納した。左下部分に「応需 辺雪溪」とあり、作者は渡辺(長谷川)雪溪と伝えられる。現存しない当時の山車の様子や、囃子連・町衆・職人の姿がうかがえる。(裏面には、奉納した鳶職の名前が記されている)

全体に10台の山車が描かれている。この行列の始まりは画面左下からである。左下の山車から順に、喜多町(俵藤太)・高沢町(猿)・江戸町(岩に為朝)・本町(関羽と周倉)・南町(天の岩戸)。続いて上段右から、志多町(小植珊瑚珠)・志義町(松に布袋)・多賀町(諫鼓)・

上松江町(亀の上浦島)・鍛冶町(小狐丸)。

どの山車も、一本柱・四つ車で上部に高欄が付き、山車人形が乗っている。また、10台の内8台で、大太鼓1・小太鼓2・鉦1・笛1・踊1の葛西囃子系と思われる囃子が演じられている。

もともと川越氷川神社の秋の祭礼は隔年に行われ、田楽や相撲などが奉納されていたようだ。慶安元年(1648)に当時の藩主松平信綱が神輿・獅子頭を寄進したのが、川越氷川祭礼の始まりとされる。その後徐々に規模を拡大し、関東の代表的な都市祭礼となり、今日では「川越まつり」として親しまれている。そして山車も、形態を変えて受け継がれている。

# 武州高麗郡下小坂村絵図

## について

### ●はじめに

本絵図は、「武州高麗郡下小坂村絵図」といい、近世に高麗郡下小坂村の村役人を務めた平野家に伝わる村方文書1938点のうちの1つで、下小坂村諸色明細帳とともに作製されたものである（平野俊雄氏蔵）。下小坂村の様子を描いているが、ここに記載されている特色等を中心に考察し、下小坂村の歴史の一端を紹介してみたい。

### ●下小坂村の概況

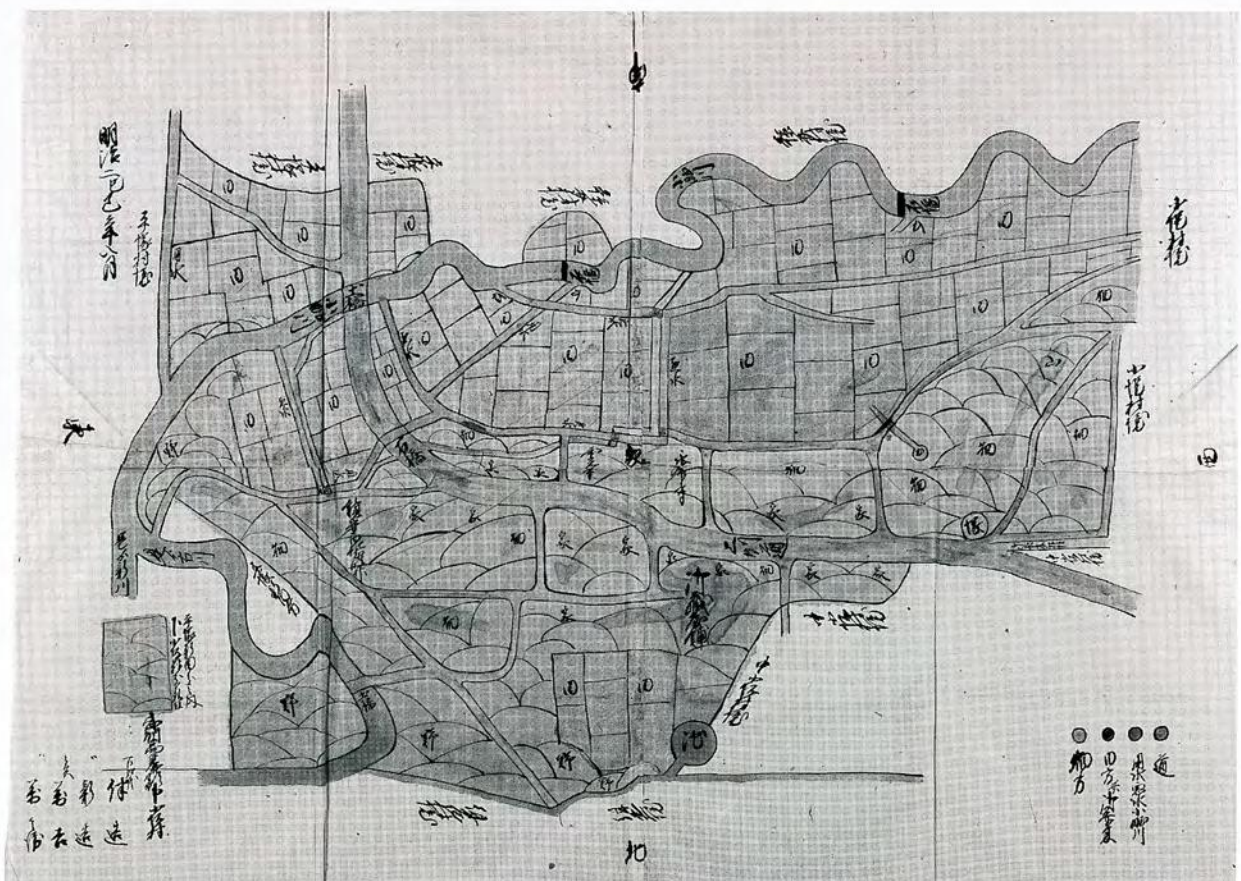
下小坂村の地名は後北条氏の史料にみえ、古い集落であることがわかる。川越市の北部、入間川と越辺川に挟まれた台地の突端に位置する。村の南部は小畔川左岸の沖積低地、北部は台地となっている。

また、下小坂には推定樹齢500余年といわれる白鬚神社の大櫨や民俗芸能の獅子舞などの歴史的物が多く、特異地域といえるほど伝説が数多く存在する。そして、大きな開発を受けることがなかったためか、今回紹介する絵図の様子を非常によく残しているところでもある。

### ●本絵図に描かれている特色

この村絵図では、村の範囲が明確に墨引きされている。つまり、村を基本とする一定の空間を取り出して描いているのである。範囲は厳密であり余計なことは描かれていない。村の四周に「鯨井村境」「平塚村境」「紺屋村境」「中小坂村境」「小堤村境」の記があり、飛地に関しては「平塚新田分」のごとく記され、村境を明確に表示している。また、道・川（用水・悪水を含む）・田・畑が強調されて描かれているのが特徴である。

以下、一般的な絵図表現上の特徴に照らし合わせて本絵図をみていくこととする。



明治2年8月「武州高麗郡下小坂村絵図」

## 1. 方位

近世絵図での方位は一般的に、図面の四辺もしくは四隅に「東」「西」「南」「北」の文字をもって示した。方位配置は自由であったが、一般に南を上にするものが多かったようである（北を上にする慣習が確立していなかったため）。本絵図についても、南を上とし四辺に方位を示している。

## 2. 縮尺

作図のうえで焦点をあてるものを強調して描く。

また、川筋・道筋等の小さいものはそのままに描くと殆ど見えない筋になってしまうことがある。このような場合、見分けがつくように大きめに（適当な目安で）図示された。

これらは、縮尺を守らずに描くことが許されていたためである。

本絵図でもこの手法が使われている。小畔川及び上州道がより強調され、それ以外の用水・悪水・小道はそれなりの目安で図示されている。

## 3. 鳥瞰図

鳥瞰図は鳥が高いところから見下ろしたように描いた絵図のことである。そして、江戸時代、郷村絵図などは鳥瞰図風に仕立てられることが多かったようだ。

本絵図も鳥瞰図仕立てとなっており、下小坂村の起伏等についてある程度類推することはできる。しかしながら、正確に地形を知ることはできない。

## 4. 彩色、凡例

色鮮やかな彩色は近世絵図の特徴である。しかし、絵図作製においては統一的な彩色基準があったわけではなく、慣行的な踏襲で、ごく自然な色彩選択がなされたようである。

本絵図をみると色使いが地味な傾向にあって道が赤、田・畑が茶と同系色で描かれている。また、彩色区別については一般には図面の余白にまとめてその凡例が示されており、これは「色分目録」などと呼ばれていた。本村絵図では凡例により4色であることがわかる。

## 5. 端書、奥書、裏書

近世絵図には、図中に多くの文字が書き込まれているのを特徴とするものも多い。村絵図や郡絵図、国絵図などの公用図においても、図面の余白に統計的諸事項を記載する「端書」が多くみられる。その末尾には製作年月および責任者の名前を記す「奥書」があることが多い。

このことを踏まえ本絵図をみてみると、「端書」にあたる部分はみられないが、「奥書」として「明治二年己巳年八月」「武州高麗郡下小坂村 百姓代 伴造 新造 与頭 萬吉 萬兵衛」の文字がある。

また、絵図の裏面に墨書による「裏書」のある場合がある。これは、境論裁許絵図によくみられる。今回の絵図には「裏書」はないが、同じ平野家文書の中の1つである『明治二年八月 下小坂村絵図（前橋藩民政裁判所へ差出し下書）』は、境論裁許絵図にあたると思われる「裏書」が記されている。

## 6. その他

上記のこと以外で、この村絵図からよめる情報を凡例に従いまとめると、次のようになる。

①道 「上州道」の文字がよめる。この道は村の幹線道路といえる。そして、鎌倉街道へ抜ける旧街道であると同時に秩父街道・高崎道などともいわれていた。現在、県道片柳川越線として改修されており、道幅等は変わっているが、一部旧道も残っている。この道には「土橋」「石橋」の文字がよめ、「土橋」は小畔川に架かっており現在は「荊橋」の名称で呼ばれている。一方、現在「石橋」は上に道路が通っており、ボックスカルバート（函渠）形態、つまり道路横断用水路となっている。

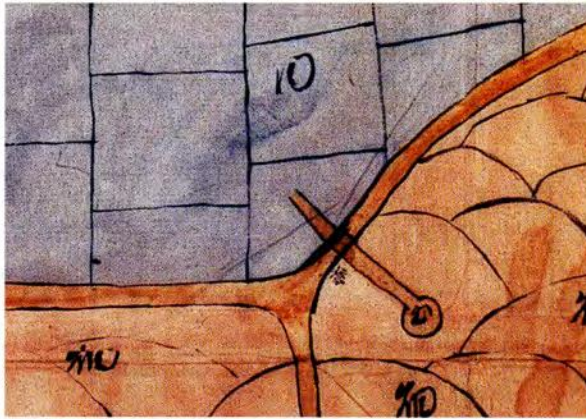
②川 村の南端に小畔川が、かつて「九十九曲がり小畔の流れ」といわれたとおり蛇行して描かれ



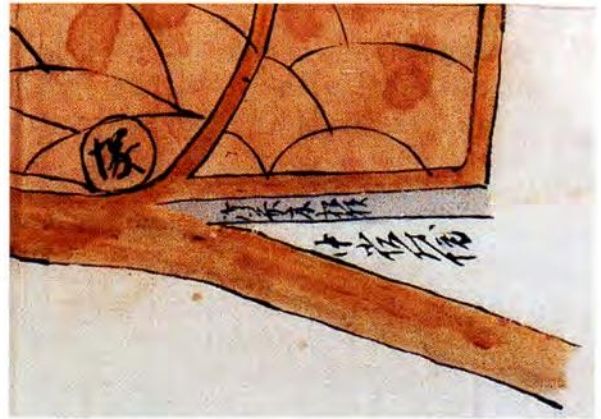
写真1 水路の現状



写真2 「御並木松杉」の現状



池（小）の描かれている部分



「御並木松杉」の描かれている部分

ている。また、二つの「石堰」と、「是より古川」「是より新川」「土橋」の文字がよめる。西側の石堰を“上谷の堰”、東側の堰を“田端の堰”といったという。「是より新川」については、弘化3年（1846）下小坂村等の名主が中心となって川越藩へ小畔川改修を嘆願。その結果、新しく長さ558間（約1000m）、幅6間（約11m）、深さ1丈（約3m）の水路を掘削して、直接越辺川へ落とすようにした。この水路は現在でも非常に良好な状態で残っている（写真1）。次に、「是より古川」は水路の掘削により残ったかつての流路であるが、この古川についても一部池として現在でも見ることができる。さらに「用水・悪水」という文字も確認できるが、これについては、後の耕地整理の関係で当時の姿とは一変していると考えられる。

- ③田 ④畑 まず田については小畔川左岸の低地及び北側の一部低地にみられる。続いて畑であるが上州道が通っているところが村の高地になっていて、ここを中心に両側へ広がっている。なお、畑と同じ様に描かれた部分で「野」と書かれているところは、耕作されていない荒地ということである。そして、田・畑に関しても耕地整理に伴い碁盤目状になり、「用水・悪水」と同様かつての形態とは変わっている。

以上、凡例に従ってみてきたが、さらにいくつかの事項がよみとれる。その一部を以下に記す。

- 池 「池」という文字が大小2つあり、小さいほうの池は、用水と思われるものが田に延びていることから、地形の高低が類推できる。また、この辺りは台地の縁にあたり湧水ではないかと考えられる。
- 御並木松杉 中小坂村との間に境論争があり前橋藩民政裁判所に訴えたようである。その結果、松・杉の直線的な並木をつくり、これをもって境とする旨の達しがあったようだ。今でもこの並木にあたる所が真っすぐな道路となって残っている（写真2）。絵図において真っすぐな道が描かれている場合、何らかの論争の結果つくられた可能性が高い。
- 御蔵屋舗（敷） 郷倉のことで、江戸時代、年貢米を一時的に収納するために村に設けた倉である。備荒貯穀倉として利用された。現在の災害備蓄庫のようなものである。文字が大変強調されて書かれているのは、当時の人々にとって大変貴重な存在であったためだろう。

## ●おわりに

上記の考察を踏まえ、まとめてみると次のようになる。本絵図に描かれている内容は幕末のころの下小坂村と考えられ、村を鳥瞰図風に描き、当時の村の規模としては平均的であった下小坂村の様子をよく表している。実際、現在の地形図と比較しても、若干の道筋の増加及び川の流路が変化している程度で、昔の様子をよく伝えていることが分かる。

絵図を素材に今昔の様子を比較するうえで、下小坂は最適の場所といえる。

### [参考文献]

- 『川越市史 史料編近世Ⅲ』
- 『近世絵図と測量術』川村博忠著（古今書院）
- 『新編武蔵風土記稿』
- 『川越市古文書目録—下小坂平野家文書—』
- 『名細郷土誌』名細郷土誌編集委員会編

（教育普及係 大澤 健）

## 分館 だより

### 蔵造り資料館

#### 町火消について

かつて川越は火事の多い所でしたが、その中でも明治26年（1893）の川越大火は、その規模等においてとりわけ有名です。

ところで、城下町時代から明治期の川越の火消しはどんな様子だったのでしょ。古い史料では安永2年（1773）の「御割付勘定目録諸帳面帳」があり、その中に「火消人足割合帳」「町抱火消人足初り諸入用帳」という記載があります。しかし、どんなものであったかは不明です。

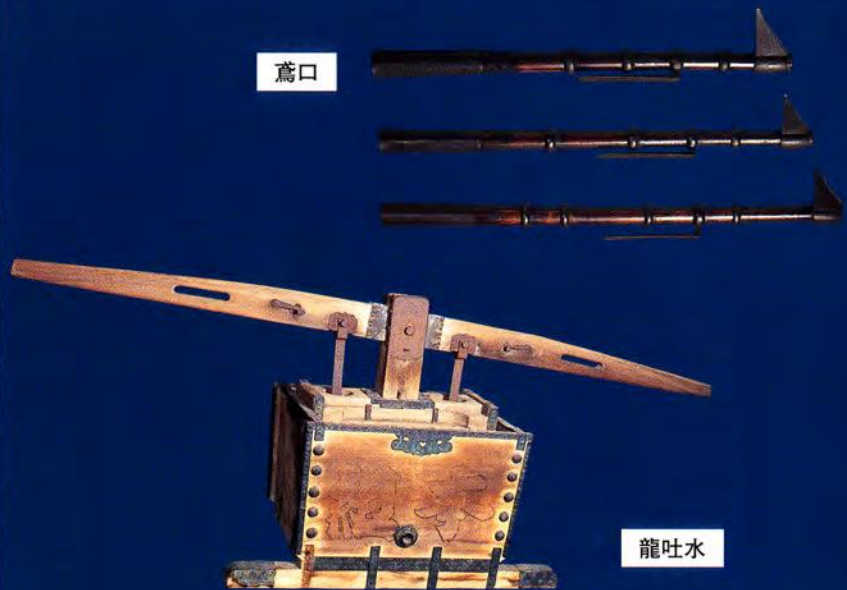
「出火之節出人足覚」や天保14年（1843）「火事場人足拾ヶ町四門前出方」の記録を見ると、十カ町四門前の火消人足や道具等、町火消の設

備状況を細かく記しています。

さて、ここで紹介した記録の中には、火消道具として龍吐水・鳶口・長鳶等の名称が出てきますが、これらの道具を蔵造り資料館二番蔵に展

示してありますので御覧下さい。また、蔵造り資料館ホームページでも火消道具について紹介をしていますので御利用下さい。

(URL [http://www.kawagoe.com/kzs\\_idx.html](http://www.kawagoe.com/kzs_idx.html))



## 常設展示室のコーナーから

「ふるさとのまつり」コーナー

### 南大塚の餅つき踊り



平成12年1月30日（日）まで展示

「南大塚の餅つき踊り」は、毎年成人の日に西福寺（南大塚23）、菅原神社（南大塚19）で行われます。この時、その年に成人式を迎えた若者を西福寺境内に招き、お祝いに踊ります。

かつては子どもが7歳になると、着物のつけ紐をとり、大人と同じように帯を結びました。これを「帯解き」といい、成長の節目としてお祝いをしました。裕福な家では、帯解き祝いに餅つき踊りを頼んだそうです。この風習は、戦前までは盛んに行われていましたが、次第に行われなくなりました。そのため成人式の祝日が制定されたことを契機に、現在のようなかたちになりました。

大釜で蒸し上げたもち米を臼に入れ、餅つき踊りが始まります。まずは、大杵で蒸し米をならします。これをナラシといいます。つきはツブシで、一斉づきをします。そして餅を「押しせ、押しせ」と練るネリを行うと、餅をつく準備が整います。つき方には、3人でつく三テコと6人でつく六テコがあります。歌にあわせ、マタクグラセなどの曲芸をいれて、リズムカルにおもしろおかしく餅をつきます。最後に西福寺から菅原神社まで臼に綱をかけ、曳きずりながら餅をついて行き、餅つき踊りが終了します。

# Information

平成11年12月～平成12年3月の予定です。

## 講座・教室 e)t)c.

行事	日程	申し込み	対象
市内児童・生徒の絵画展示 わたしたちの川越を描く美術展	展示期間 12/4(土)～1/16(日)		
市民の日記念事業 ミュージアムコンサート	12/5(日)	11/10(水) 朝9時～ 電話(ファクス可)で	小学生から一般まで
伝統の技に触れる 子ども博物館教室(後期)	12/19(日) 1/30(日) 2/26(土)	12/1(水) 朝9時～ 電話(ファクス可)で	小学校中学年から 中学校2年生まで
近・現代に見る子どもの生活の移り変わり 歴史講演会「むかしの勉強・むかしの遊び」	2/6(日)	1/10(月) 朝9時～ 電話(ファクス可)で	市内在住・在勤の方
布と織りの魅力 機織り基礎講座	2/13(日) 19(土) 20(日)	1/21(金) 朝9時～ 電話(ファクス可)で	市内在住・在勤の方
石仏に込められた先人の願い 野外博物館教室「川越の石仏を訪ねて」	3/26(日)	3/3(金) 朝9時～ 電話(ファクス可)で	市内在住・在勤の方

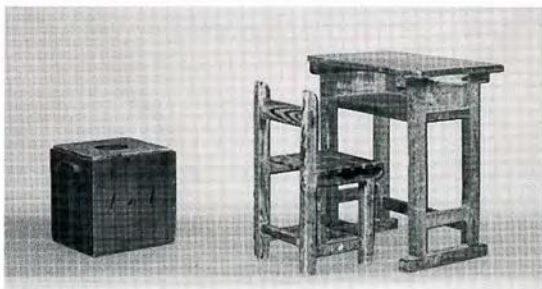
\* 変更の可能性もありますので、詳細については、「広報 川越」を御覧下さい。  
お問い合わせは、博物館まで。

### 講座・教室 pick up

## 歴史講演会

### “むかしの勉強・むかしの遊び”

ミニ展「むかしの勉強・むかしの遊び」(8頁で紹介)と関連して講演会を開催します。



講師——東京成徳短期大学教授 深谷昌志氏  
著書…

『子ども社会の遊びと流行』(大日本図書)  
『子ども考現学』(福武書店) 他

現代の子供達や教育を、教育史・子供の生活史等から見直す機会として、ぜひ御参加下さい。

### 土曜体験教室

毎月第2土曜日、博物館で遊んでみませんか？

平成11年 12/11 触れて作って麦わら細工

平成12年 1/8 どろめんこで遊ぼう

2/12 はかってみよう

3/11 手作りおもちゃ

●時間 午前10時～11時30分  
午後1時30分～3時30分

●場所 川越市立博物館・体験学習室、他

●申し込みは不要です。当日、直接博物館へお越しください。  
児童・生徒は、参加のための入館は無料です。

# ●平成17年度

## 学芸員実習から

7月24日から8月8日の2週間にわたって、当館で学芸員実習が行われました。実習を修了した7人の声を御紹介します。



様々な博物館資料の取り扱い方について御指導いただきましたが、特に仏像の梱包の実技等については、貴重な経験をさせていただけたと思っています。仏像を柔らかい材料で包む、慎重を要する作業で緊張しましたが、たいへん勉強になりました。 Y. S

子ども博物館教室に実習生として参加させていただきましたが、とても良い経験となったと思います。誰でも気楽に参加できるような内容になっているので、私も一緒にピンホールカメラを作成して写真撮影を行いたいぐらいでした。 Y. T

実習のなかで拓本のとり方を教えていただいたが、なかなか上手にできなかった。タンポでたたいていくことによって文字が次第に写しとられていくのは楽しかったが、全体を均一の濃さにすることが特に難しかった。 S. I

実際に寄贈された川越産の簞笥の受け入れと整理を行いました。洗浄、計測、スケッチ、ラベル付け、写真撮影をするなかで、この簞笥についてもっとよく知りたいと思うようになりました。また、物を大事に使うことの大切さを教わりました。 S. S

実習を通じて、掛軸や古文書、屏風、土器等に直接触れることができました。特に、刃文の美しさや確かな重みを感じた刀剣の迫力には、ただただ圧倒されたのを覚えています。普段展示を見るだけでは味わえない体験でした。 M. I

昔の遊び教室の受付をお手伝いしたとき、子どもたちが体験学習室に向かって走って来る姿を見て、心からこの教室を楽しみにしているのだと思いました。私にとっても、子どもたちにとっても貴重な楽しい体験でした。 T. I

今回実習をして、学芸員の資質で重要なことは人前で臆することなく話すことだと感じた。資料の調査など物を大切に扱うことと同時に、文化財をどれほど大切に思っているかということをお人々に訴えかける力が必要なのだと思う。 T. O



## 図録紹介

〈博物館受付でお求めいただけます。〉



第2回企画展  
「写真展  
—明治・大正・昭和の川越—」

八〇〇円



第2回特別展「川越の指定文化財」

一、二〇〇円



開館記念特別展  
「職人絵 姿絵にみる匠の世界」

九〇〇円

# 第10回ミニ展

## むかしの勉強・

## むかしの遊び

平成12年1月25日(火)～2月27日(日)



特別  
展  
示  
室  
の  
観

小学校3年生の社会科学習に合わせた展示です。地域の人々の暮らしの移り変わりを生活道具・遊び道具等からたどります。

昭和30年代の教室・居間・台所や駄菓子屋の店先の再現を行うほか、教科書やランドセル・文房具・電気洗濯機・白黒テレビ・ブリキのおもちゃ等を展示いたします。

今の子供たちのお父さん・お母さんやおじいさん・おばあさんが小さかった頃の生活に触れてみませんか。大人の方々も楽しめる展示です。

### 御案内

御存知でしたか？  
展示解説

当館では、解説員による展示解説を行っています。(解説は無料)

あらかじめ電話等で予約いただければ、開館時間中、20分～40分程度館内を御案内します。(希望時間帯が重なった場合は先着順となります)

なお、土・日曜日・休日の、11時30分と14時15分に行う定時解説は、予約不要でお聞きいただくことができます。(館内の都合により中止することもあります)



### ..... 利用の御案内 .....

- ◆開館時間 午前9時から午後5時まで(ただし入館は4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日(休日は除く)、毎月第4金曜日(休日は除く)、休日の翌日(土・日曜日は除く)、年末年始(12/28～1/4)、燻蒸期間(7月上旬頃予定)、特別整理期間(12月中旬予定)

#### ◆入館料

区分	博物館	川越城 本丸御殿	川越市 蔵造り資料館	3館共通券 (博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館)
大人	200円(160円)	100円(80円)	100円(80円)	300円
学生・生徒	100円(80円)	50円(40円)	50円(40円)	150円
児童	50円(40円)	30円(20円)	30円(20円)	80円

●( ) 内料金は、団体〔20名以上、1名につき〕の場合。

●開館時間・休館日は、3館とも同様。(燻蒸期間・特別整理期間は博物館のみ休館)

### 交通案内

東武東上線・JR川越線 川越駅より  
または西武新宿線 本川越駅より  
東武バス 「札の辻」下車徒歩8分



発行日 平成11年11月30日

発行 川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1 ☎0492-22-5399